ICTニュース

大阪府済生会中津病院　感染対策チーム

2019年3月号
Vol.67
（2019年3月5日発行）

注意　麻疹と風疹について

大阪府を中心とした麻疹の流行が止まりません。2019年は、第7週までの全国での麻疹患者の累積報告数は222例で、2013年以降の同時期と比較して最多を記録しています（図）。大阪府の麻疹患者数（累積）は、第7週までで77例と全国1位であり、第8週（2月18日～24日）までの累積報告数は更に増加して96例となっています（3月2日現在）。

麻しんは麻疹ウイルスによって引き起こされる感染症であり、空気感染、飛沫感染、接触感染と様々な感染経路を示し、その**感染力は極めて強い**ことが大きな特徴です。典型的な麻疹の発症例では、感染後10～14日間の潜伏期を経て、①**カタル期**：38℃前後の発熱、上気道炎症状等、経過中に頬粘膜にコプリック斑、②**発疹期**：39℃以上の発熱、頭頸部より発疹が出現して全身に広がる、③**回復期**、といった経過をたどります。合併症として肺炎、中耳炎、脳炎、心筋炎等があり、2000年に大阪で麻疹が流行した際には入院率は40%を超えました。未だに有効な治療方法はありません。今のままでは春になって更に患者数が増加し、全国手な流行へと発展していくことが危惧されます。麻疹の予防は麻疹含有ワクチンの接種しかありません。私共のような医療機関はもちろんのこと、行政機関、多数の人が集まる公共施設のみならず、大阪全体で対策に取り組んでいく必要があると思われます。

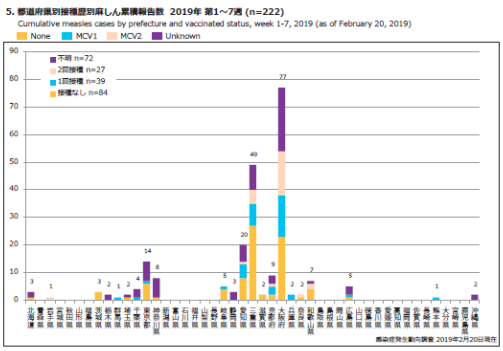


図. 麻疹の都道府県別接種歴別累積報告数（2019年第1～7週）（国立感染症研究所ホームページ：https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html より）

次に風疹です。昨年（2018年）は全国で2917名の患者報告数となり、関東地方を中心に秋以降流行が見られました。2019年に入っても風疹の流行は継続していて、大阪府も第8週までの患者報告数は60例と、ここまでは大阪府だけで1年間で3000人以上の患者数を記録した2013年と同等の患者数の増加を示しています。風疹が流行すると、その流行は妊娠女性にまで影響し、流行から6か月後には先天性風疹新症候群（CRS）の児の出生が増加する可能性があります。2019年4月からは、風疹含有ワクチンの定期接種の対象ではなかった39～56歳（2019年4月1日現在）の男性を対象とした風しん抗体価の測定とワクチンの接種（いずれも公費負担による；「風疹の追加的対策」）が開始されます。これによって、少しでも風疹の流行が抑制されることを願っています。

感染管理室　安井良則

注目！　麻疹（はしか）の抗体価あるかな？

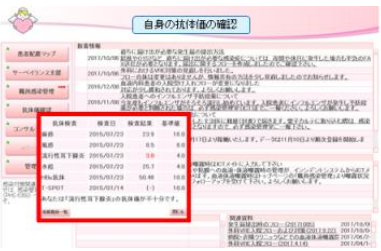
前述のように現在、大阪府内では麻疹（はしか）が流行しています。麻疹は感染力が非常に強く、空気感染するため、麻疹に免疫のない方が麻疹患者と接触すると高い確立で感染すると言われています。麻疹を予防するためには、ワクチン接種（抗体価の獲得）が有効です。当院では、全職員に対し、入職時および5年毎に麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価検査を行い、抗体価が基準値を下回る者に対してワクチンの接種を推奨しております。ご自身の抗体価およびワクチン接種歴に関しては、『ICTメイト』内にてご確認できます。ご自身の健康管理のためにも、一度この機会に抗体価およびワクチン接種歴を確認してみてください。

感染管理室　川口尚子

①ICTメイトのアイコンをクリック

②抗体価確認をクリック

③ご自身の抗体価が表示されます！



【参考】当院の抗体価基準値：EIA法（IgG）

疾患名	基準を満たさない（ワクチン接種要）		基準を満たす（ワクチン接種不要）
	－	±	＋
麻疹	8.0未満	8.0～16.0未満	16.0以上
風疹	4.0未満	4.0～8.0未満	8.0以上
水痘	2.0未満	2.0～4.0未満	4.0以上
流行性耳下腺炎	2.0未満	2.0～4.0未満	4.0以上

★万が一、ご自身やご家族で麻疹を疑い受診される場合は、通常とは異なる経路での案内になる場合がございますので、必ず受診する前に医療機関に電話にてお問い合わせください。麻疹の感染拡大防止にご協力よろしくお願いします。